



SCB

ニュース&トピックス

No.2025-02

(2025. 4. 4)

信金中央金庫 地域・中小企業研究所

北海道支店 守屋 凜生

03-5202-7671

s1000790@facetoface.ne.jp

日高信用金庫の地域活性化施策について

ー「ウマ娘 プリティーダービー」とのコラボ缶バッジ制作による馬産地日高の活性化ー

ポイント

- 日高信用金庫¹（以下「当金庫」という。）の営業地域である日高地方は、北海道の中央南部に位置しており、国内有数の競走馬生産地として有名である。
- 株式会社Cygames が提供するクロスメディアコンテンツ「ウマ娘 プリティーダービー」（以下「ウマ娘」という。）の大ヒットをきっかけに、登場キャラクターのモチーフとなった競走馬にゆかりのある施設を訪れる観光客が増加していた。
- 当金庫は、こうした状況を好機と捉えて、「ウマ娘」とコラボしたご当地缶バッジを地元企業や自治体等と企画・制作した。その結果、缶バッジを求めて地域を周遊する観光客が増加するなどの効果がみられた。
- 当金庫は、引き続き、地元企業や自治体と協働し、日高地方をサラブレッドの聖地としてブランディングすることで、当地域の活性化に取り組む方針である。

1. 取組みに至った背景

当金庫の営業地域である日高地方は、競走馬生産の全国シェアの8割を占めるなど、国内有数の競走馬生産地として知られている。しかし、近年は人口減少や少子高齢化、都市部への人口流出によって、将来的な地域経済の維持が危ぶまれており、当金庫としても当地域の活性化に課題を感じていた。

株式会社Cygames が2021年2月にリリースした実在の競走馬をモチーフにしたキャラクターが登場するゲーム「ウマ娘 プリティーダービー」が大ヒットを記録し、その影響からモチーフとなった競走馬の産地である日高地方に、多くの観光客が集まっていた。

2. 取組みの詳細

「ウマ娘」が日高地方の観光に好影響を与えていると認識した当金庫は、「ウマ娘」を観光振興に活用できないかを検討し、キャラクターのモチーフとなった競走馬を繁養していた「うらかわ優駿ビレッジAERU」²に対し、ご当地コラボグッズの制作を提案した。

その後、先んじて株式会社Cygames と連携し、「ウマ娘」を観光振興に活用していた日高振興局などの協力を得ながらコラボグッズの検討を進め、「ウマ娘」ゆかりの日高地方にて、コラボ缶バッジ（図表1）の発売が決定した。

なお、缶バッジの発売にあたっては、缶バッジを巡る日高

（図表1）コラボ缶バッジ



© Cygames, Inc.

¹ 本店所在地：浦河郡浦河町、預金量1,577億円、貸出金885億円、店舗数8店舗、常勤役職員数124人（2024年3月末時点）

² 浦河町と日本中央競馬会が「馬と自然と触れあえる里」をテーマとして、開業した総合保養施設

地方のツーリズムを促進させるため、ネット販売はせず現地販売に限定することとした（図表2）。

2023年7月には、第1弾として2種類の缶バッジを制作し、浦河町内の2か所限定で販売した。2024年4月には、日高町の「Yogibo ヴェルサイユリゾートファーム」および新冠町の「優駿メモリアルパーク優駿記念館」を新たな販売場所としたうえで、第2弾として、全6種類の缶バッジを発売した。

以上の取組みは、当金庫が日頃より自治体や地元企業とリレーションを構築していたからこそ、スピーディーに実現できたものである。

（図表2）缶バッジ販売の様子



3. 取組みの成果

缶バッジを求めて初めて日高地方を訪れる観光客がいたほか、缶バッジを販売した施設等の利用者も増加した。また、缶バッジを発売した施設のうち「うらかわ優駿ビレッジAERU」からは、以下の反応があった。

【うらかわ優駿ビレッジAERUの反応】

- ・ 当ホテルの客層は年配層がメインであったが、缶バッジの発売により、「ウマ娘」のファン層による聖地巡礼や関連イベントへの関心が高まり、若年層の宿泊客が増加した。
- ・ 地元の名馬がモチーフとなっている「ウマ娘」の缶バッジは、コンプリートを目指すファンにとって魅力的なアイテムとなり、多くの観光客が浦河まで足を運ぶ契機となった。
- ・ 当施策が継続的な地域活性化に繋がり、観光需要の増加を後押ししている。

特に、2年目には販売エリアを拡大したことで、コラボ缶バッジを求める観光客が日高地方を広く巡行し、地域の飲食店、宿泊施設、土産物等にも経済波及効果がみられた。

4. 今後の展望

当金庫は、地元企業や自治体および株式会社 Cygames の協力なくては、当施策は実現し得なかったものであり、今後の地域活性化においても、各方面とのリレーションの維持・構築は非常に重要なものであると考えている。

今後も、日高地方の地域金融機関として、地元企業や自治体等と連携し、サラブレッドの聖地＝日高地方とブランディングすることで、当施策をきっかけに来訪した観光客の再訪や移住につなげるなど、産業と観光が両立した持続可能な地域活性化策に取り組む方針である。

本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがって、投資・施策実施等についてはご自身の判断をお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。